

5. 企業防災カルテを用いた詳細診断

建部謙治・小橋勉

1. はじめに

ここでは、企業防災カルテを用いたモデル企業における詳細診断事例を紹介する。

1回目の調査は、平成17年9月に防災担当者に対してヒアリング調査を実施した。その後の企業内での防災力向上のための対策成果を測るため、4ヵ月後の平成18年1月に再び同じ内容について2回目の調査を実施した。

2. 防災カルテの構成と評価方法

企業へのヒアリング調査を踏まえて、アンケートの調査項目を抽出した。項目抽出のための基準は「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの経営資源から抽出とした。その中でヒトとモノは、それぞれ「訓練・対策」と「現状・対策」に分けて全6項目とした（表1）。

6つの項目を相互比較するため項目ごとに、 $(\text{設問得点合計} / \text{満点}) \times 100$ として100点満点の換算値を求めた。また、得られた換算値と防災力評価の関係を理解しやすくするため、換算値を5段階にランク分けした（表2）。換算値が高いほど、防災力が高いということになる。第2章に関連項目があるので参照願いたい。

表1 換算値と評価ランクの関係

人的訓練	防災訓練、防災教育など
人的対策	落下物対策、企業消防隊の有無など
情報	マニュアル、連絡網の整備、支援体制など
金銭	保険加入の有無、予想被害額の算出など
物的現状	耐震化、地盤状況の認識、など
物的対策	備蓄の確保、家具転倒防止策など

表2 ランク分け

換算値	評価ランク	防災力
0~19	評価1	低
20~39	評価2	↑
40~59	評価3	
60~79	評価4	↓
80~100	評価5	高

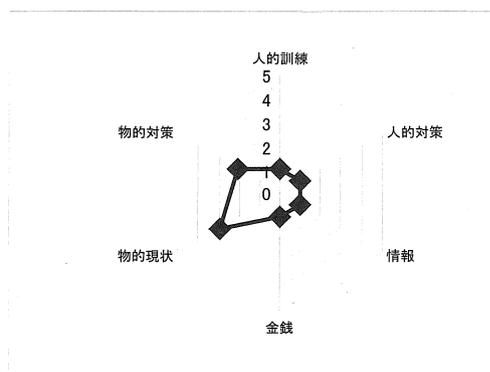


図1 モデル企業の防災力評価 1回目

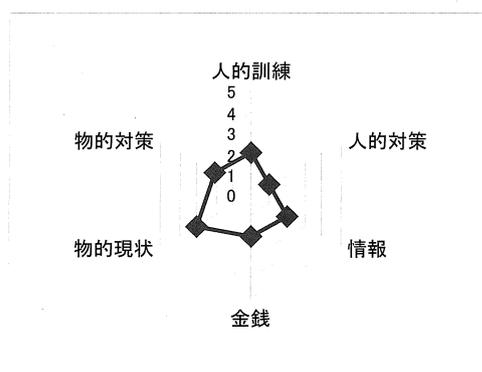


図2 モデル企業の防災力評価 2回目

3.1 回目の調査結果

モデル企業における第1回目の防災力評価のレーダーチャートを図1に示す。6項目中、物的現状以外の項目の評価は評価ランク1から2と最も低いランクである。これを、三河企業27社を対象とした調査での防災力平均値と比較した場合でも、全項目において低い値を示した。その後のヒアリング調査からも、モデル企業ではこれまでほとんど地震対策には取り組んでいなかったことが確認された。

4.2 回目の調査結果

第1回調査後、経営者は、本研究機関とのかかわりの中で地震対策の必要性を考えるようになった。そして建物の老朽化や工場が立地する敷地地盤が液状化の可能性があるが、現状では企業として建物の耐震化などハード面での対策をとることが難しいと判断した。そこでまず出来ることとして従業員の安全を確保するための対策を重点的に行うことに全力を挙げていきたいと考えた。その後の企業側がとった行動は、下記に示すように、「全社員での防災訓練を行った(人的訓練)」、「避難ルートを確認した(人的対策)」、「データのバックアップの頻度を上げた(情報)」、「備蓄を準備した(物的対策)」などの対策であった。

- ・従業員に常に危険意識を持たせる訓練の実施
- ・避難場所と避難通路の確保と確認
- ・避難通路となる扉の改善(以前は鉄扉だったところを透明のシートに変更した)
- ・工場内におけるスピーカー位置の見直し
- ・非常用品の備蓄の検討(水、食料、ガスコンロ、ナベなど)
- ・地震対策・復旧支援の見直し
- ・毎年の地震対策費用の準備

図2は第2回目の調査結果である。これで分かるように、「人的訓練」、「情報」、「金銭」での3つの項目が評価1から評価2と1ランク上がっている。1回目の調査と2回目の調査の間はわずか4ヶ月ほどであったが、短期間でランクアップできた事は、担当者の防災意識の高さと行動力があつたためである。

5. 今後の対策における提案

第一に取り組むべきことは、「人的訓練」として防災マニュアル及び避難経路マップの作成である。これを作成する事でソフト面の対策がある程度明確になる。初動マニュアルに盛り込むべき内容としては、緊急連絡網の整備やデータのバックアップ方法とその保管場所についてなどである。これが実施できたら、次はマニュアルに基づいた避難訓練や緊急連絡網の確認など「情報」に関連する対策である。このようなことを行うことで、従業員の防災対策意識が根付き、企業としての防災力は向上していく。

また、モデル企業は製造業なので、生産ラインやその機械設備についての「物的対策」を行う必要がある。2つの工場については立地が比較的近いので、大地震では非常にリスクが高いことは否めない。このため、企業の存続を考えると遠隔地の生産拠点の整備と被災時の機能移転対策についても検討されるべき課題と言える。

もしこのような対策を行った場合のレーダーチャートは図3のように、かなりバランスのとれたものになる。

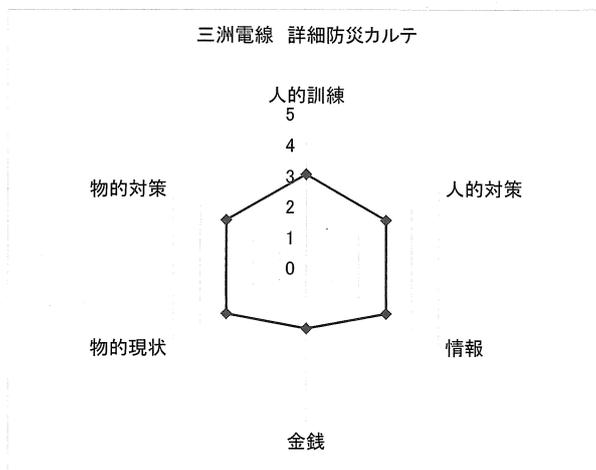


図3 対策後の防災力評価